

蕨市手話言語条例推進事業

ヒゲの校長 上映会

映画

Once upon a time in Osaka. for the Deaf with Sign Language 1914

蕨市では「蕨市手話言語条例」を令和3年4月に制定し、条例の周知や聴覚障害への理解を促進するための取組みを進めています。

手話の歴史を映像を通して知ることができ、また出演者の方の豊かな手話表現が魅力である本作品を多くの皆様にご鑑賞いただき、更なる手話の普及に向けた取組みを進めてまいりたいと考えています。



令和7年9月21日（日）

蕨市立文化ホールくるる 3階多目的ホール

第1部 映画上映会 12:30～（開場12:00）

第2部 デフリンピックを知って応援しよう！ 15:00～

参加費無料

お申込みはこちらのQRコードよりお願いします

※蕨市福祉総務課

電話:048-433-7754 FAX:048-444-2949でも可



主催：蕨市

協力：蕨市聴覚障害者協会・蕨手話サークル

映画「ヒゲの校長」とは

皆さんは、耳がきこえない人と話されたことはありますか。筆談、ジェスチャー、口元を見せてゆくりはっきり話すなど、さまざまなコミュニケーション方法がありますが、その中で手話をメインにして話す人たち「ろう者」がいます。ろう者にとって**手話**はかけがえのない言葉です。

ろう・難聴の子どもたちが通う**ろう学校・聴覚支援学校**では、手話が使われてきたのだろう…そう、多くの方が思うでしょう。ところが、大正の終わり頃から最近までろう学校では手話は禁止・制限されていました。「**口話法**」と言って発声し、相手の口の動きを読みとる方法が急速に広がり、口話法を進めるには手話は不要なものとされてしまったからです。きこえない子どもが訓練によって話せるようになる…、なんと素晴らしいことだろうと、ろう者のことを知らない人は思うかも知れません。

しかし、口話法を身につけさせるために、かつての口話訓練は、つい手話で話してしまう子どもは叩かれ、両手を縛られもした苛酷なものでした。おおっぴらに手話ができないろう者たちはずっと苦しみました。

そこに疑問をもち、個々の子どもに合わせて手話と口話を取り入れる教育を進めた学校がありました。

この映画の舞台となる**大阪市立聾唖学校**です。

映画『ヒゲの校長』は、**校長 高橋 潔**を中心に教師たちがスクラムを組んで、手話を守り続けた実話がもとになっています。愛情と信念をもって子どもたちに接した高橋と「チーム高橋」の教員たち、高橋に献身的に寄り添った家族…戦争にあけくれた困難な時代に、ろう者と共に生きた人々の物語です。

どうぞ、ご家族、お友だちとご一緒にお越しく下さい。



【昭和8年 大阪市立聾唖学校】
～ 高橋校長ときこえない先生たち ～

手話言語の国際デー 9月23日

(International Day of Sign Languages)

手話言語の国際デーは、2017年12月19日に国連総会で決議されました。

決議文では、「手話言語が音声言語と対等であることを認め、ろう者の人権が完全に保障されるよう国連加盟国社会全体で手話言語についての意識を高める手段を講じることを促進する」とされています。

2022年より、全日本ろうあ連盟からの働きかけで、世界各地で、全日本ろうあ連盟のロゴの色である「世界平和」を表す青色のライトアップが行われています。

